

非核奈良

森本孝順(唐招提寺長老)筆

2010年
11月15日
第93号

発行 非核の政府を求めると奈良の会
〒630-8213 奈良市登大路町3-6 大和ビル4F
奈良合同法律事務所 気付
電話0742-26-2457 FAX26-3010 郵便振替01020-1-56459

私たちは非核の五項目を
実行する政府を求めます

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

非核平和の集い

1万円札に福沢諭吉はふさわしいか？ —「暗い昭和」につながら「明るい明治」—

講師：安川寿之輔さん (名古屋大学名誉教授)

とき 2010年12月3日(金) 午後6時30分

ところ 奈良県教育会館 大会議室 参加無料

(近鉄奈良駅から徒歩5分、県文化会館西側)



☆ NHKは今年も「坂の上の雲」を放映する予定です。昨年は厳しい批判もあり、そもそも福沢諭吉はどんな人だという話になりました。大変おもしろいテーマですので多数のご参加を期待しております。

会議の外とは：

ところで、8月5日朝のNHKニュースで、NHK広島局が広島市民2000人を対象に行ったアンケートが紹介されていましたが、核兵器はなくなるかと答えた人はわずか2%、10%の人は増えるかと答え、圧倒的多数の答は多少は減るが現状とそう変わらないというものでした。また、9日の長崎新聞は1面トップに被爆者を対象にしたアンケート結果とし

活気に満ちた世界大会

今年の原水爆禁止世界大会は、5月に開催されたNPT再検討会議での前進を反映して、核兵器廃絶に向け大きな一歩を進めようという活気に満ちた感がありました。

大会では、核兵器廃絶の世論をさらに高めていくために、核兵器容認の根源にある「核抑止論」は核兵器による脅迫以外の何物でもなく、核の抑止力による平和は成り立たないことや、核兵器が使われれば何が起これるかについて学び、知らせていくこと、そして、NPT再検討会議に向けた署名運動に発揮した草の根の力を結集して、NPT再検討会議最終文書が示した核兵器廃絶への取り組みを進めるよう、各国政府に働きかけていくことの重要性和緊急性が確認されました。

〈原水爆禁止世界大会〉

確信を持って

核兵器廃絶に向け 政府を動かそう

事務局長 今正秀

て、核兵器廃絶は不可能と答えた人が4割と報じていました。世界大会での議論との温度差に驚きました。

こうした回答がなされる要因の一つに、NPT再検討会議の成果や世界大会の議論が知られていないことをあげることができると思います。NPT再検討会議については、核兵器保有国を含むすべての国が核兵器廃絶に向けた行動を起こすことに合意し、2014年のNPT再検討会議準備会議にその成果を報告することが求められているのです。そして、世界大会では、各国政府に核兵器廃絶の取り組みを進めるよう働きかけることが議論されたのです。長崎大会で発言したアメリカからの海外代表は、ヒロシマ・ナガサキを訪れるよう、オバマ大統領へのロビー活動を粘り強く続けていくと発言して大きな拍手を浴びました。そんなことが、どれだけ知らされているのでしょうか。

歩みを進めるのはわたしたち

政府を動かし、核兵器廃絶への歩みを進めるのは主権者である私たちです。そのためにも、世界大会で確認された、核兵器廃絶の世論を高めていくことが欠かせません。世界が核兵器廃絶に大きく進みつつあることに確信を持って、私たち一人ひとりが身近な人に働きかけていきましょう。

最高額面紙幣の肖像からの 福沢諭吉の引退を！

―「暗い昭和」につながる 「明るくない明治」

名古屋大学名誉教授
「不戦兵士・市民の会」

副代表理事 安川 寿之輔

NHK「坂の上の雲」はウソで始まった―『学問のすすめ』の「一身独立」

韓国強制併合100年、日清戦争以来の日本の戦争責任・植民地支配責任に向き合うことを求められている時期に、NHKは「明るい明治」を描く「坂の上の雲」放映を開始した。秋山好古が弟に『学問のすすめ』第3編「一身独立して一国独立す」を見せて、「人、ひとりひとりが独立して、初めて国家が独立できる」と語った。しかし、近代日本を「明るい明治」と「暗い昭和」へととらえる司馬遼太郎「史観」は、同じ時代をく明治前期の「健全なナショナリズム」と昭和前期の「超国家主義」として把握する丸山眞男の分断史観を言い換えたにすぎない。問題は、丸山の福沢像は虚構の「丸山諭吉像」であるという事実である。

事実、「一身独立・一国独立」を論じた第3編で、福沢は「一身独立」の内実やその条件は論じておらず、もっぱら国民の「独立の気力」だけを論じており、決定的な問題は、「一身独立」が一人、ひとりひとりの「独立」や、丸山の主張する「個人の自由独立」とはおおよそ関係なく、「国のためには財を失ふのみならず、一命をも抛て惜むに足らない国家主義的な「報国の大義」のことである。「雲」は嘘から始まったのである。

中期福沢諭吉の保守化と韓国併呑への道のり

民権運動と遭遇した福沢は、「自国の独立」確保が最優先で「一身独立」の課題を放り出し、モデルの欧米諸国が社会主義・労働運動で「狼狽して方向に迷う」現実を認識することによって、「無遠慮に其地面を

押領」する「強兵富国」のアジア侵略路線と「愚民を籠絡する…欺術」を本質とする天皇制を選択した。

「脱亜論」の侵略路線は、「我日本帝国ヲシテ強盗国ニ変セシメント謀ル」道のりであり、「不可救ノ災禍ヲ将来ニ遺サン事必」然という同時代の適切な批判を受けていた。「東洋の権柄を我一手に」と大英帝国に比肩する帝国主義強国を展望していた福沢は、山県首相「利益線」発言より3年も早く「防禦線を定むべきの地は必ず朝鮮地方」と主張。帝国憲法と教育勅語を賛美し、内村鑑三の教育勅語忌避事件を契機とする「思想、良心、信教の自由」弾圧に完全沈黙で協力した福沢は、「従順、卑屈、無気力」の国民性を賛美した。日清戦争に際し「減私養公・一億玉砕」の「日本臣民の覚悟」を説いた彼は、朝鮮王宮占領・旅順虐殺・閔妃暗殺・雲林虐殺等の全事件を隠蔽・合理化する戦争報道を通じ、靖国神社の軍国主義的利用の先駆的発言もした。1895年の「今、日本の国力を以てすれば、朝鮮を併呑するが如きは甚だ容易…」という主張は、生前の福沢が韓国併呑の可能性を予告したものである。

アジアの声に応えて、一万円札からの福沢の引退を！

福沢が一万円札に初登場した時、朝日「声」欄に「アジア軽侮の諭吉」

の起用を批判する投書が掲載された。しかし「丸山諭吉」神話の圧倒的な影響下の日本のマスコミは、04年秋に紙幣の肖像が一斉に替わるのに福沢のみ続行という出来事を「紙も問題にできなかった(韓国紙は別)。アジアは、福沢が朝鮮の「近代化の過程を踏みにじり、破綻へと追いやった」わが民族全体の敵、「最も憎むべき民族の敵」(台湾)と評価しており、日本軍性奴隷問題告発の尹貞玉も「日本の一万円札に福沢が印刷されているかぎり、日本人は信じられない」と語っている。

①安川『福沢のアジア認識』『福沢と丸山』『戦争論と天皇制論』の3著への学問的な反論はなく、②外ならぬ慶應大学が2度にわたり安川を講義に招いた事実、③「福沢のアジア認識」の中国語訳に次いで韓国語訳の動向もある。今春、④「司馬史観への疑問」と題して安川の福沢研究を好意的に紹介する朝日新聞論説委員の「窓」記事も登場した。⑤驚きは、一億冊のベストセラー『美味しんぼ』の原作者・雁屋哲が来春には「福沢こそが日本を1905年の破綻に追い込んだ元凶」と主張する著書を刊行する。⑥さらに今秋、杉田聡編『福沢諭吉 朝鮮・中国・台湾論』の刊行は、福沢神話の崩壊を加速しよう。つまり、一万円札からの福沢引退の実現の遠くかすかな可能性が見え始めているのだ。

一人ひとりの力で前進を 反核医師のつどい in 奈良

Ⅱ 全国大会を終えて

坪井 裕志 (奈良反核医師の会)

○準備 奈良反核医師の会結成は2007年9月でした。3年足らずで、全国大会である「第21回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどいin奈良」の開催に手を挙げました。地元で合同委員会を立ち上げ、近畿ブロック（大阪、京都、兵庫、滋賀、和歌山）の保険医協会、IPPNW（核戦争防止国際医師会議）日本支部及び民医連と協力して実行委員会を組織し、昨年11月から準備にかかりました。シルクロード周辺の国々で紛争が絶えない中、これらの地域での非核化・平和が重要であるとの認識から、「シルクロード終着の都から世界の非核平和を」を副題に選びました。シンポジウムのパネリストを貴会代表の中塚明先生にお願いしましたが、ご多忙とのことで残念でした。奈良遷都300年祭の年でしたので、会場選

びと宿泊ホテルの手配に苦勞しました。た。
○当日 今年の9月18、19日に、奈良女子大学講堂と奈良ロイヤルホテルで開催し、全国から388人（医師・歯科医師142、医学生30、医療関係者・事務局99、一般105、他12）が集いました。18日は、記念企画の佐々木梅治氏の「父と暮らせば」（井上ひさし氏原作）の一人語りでは、被曝した娘の「自分は生き残った」と辛い心情が語られました。安田暎胤（えいいん）薬師寺長老（世界宗教者平和会議日本委員会常務理事他）の挨拶、テイルマン・ラフ氏（IPPNW前オーストラリア代表、ICAN（核兵器廃絶条約の実現をめざすIPPNWの国際キャンペーン）運動推進）の記念講演がありました。

その後、奈良ロイヤルホテルで、全体会（全国の民主団体活動報告・交流）があり、レセプションでは、



宮城恭子氏の挨拶と貴会の吉田恒俊氏の来賓の挨拶がありました。翌19日は冒頭に原爆の語り部として自らの被爆体験を小中学生に伝え続けている奈良市の秋山勝彦さんが核廃絶の思いを訴えられ、日本側の原爆被害の調査報告書が米国で眠っていたことに触れ、「もっと早く公開されていれば入市被爆者の認定も早く進んだし、治療にも役だったはず」と日米双方の姿勢に疑問を投げかけました。被爆者が全員救済されないと、核問題は終わりません。その後、

アメリカの未臨界核実験の強行に 対し強く抗議する。

アメリカエネルギー省は去る9月15日にネバダで未臨界核実験をしたことを明らかにしました。当会はこれに対して去る10月29日、中塚明代表の名前で抗議声明をオバマ大統領に対して行いました。

「世界の平和に向け、奈良から第一歩を踏みだそう」と題し市民公開シンポジウムがありました。

○そして、これから 今年、4月にNGOによる国際平和会議、5月にNPT（核不拡散条約）再検討会議、7月に平和市長会議、8月に原水爆禁止世界大会とIPPNW世界大会（次回は広島）と、重要な国際会議が開催されました。それらの成果によって、核兵器廃絶にむけて、大きく一歩を踏み出しました。世界中の平和を希求する市民と共に地道に着実に運動を続けることが大切です。日本国憲法を護り、非核・平和の行動（ICANキャンペーン）を日常的に前進させようという思いを新たにしました。

〈常任世話人から一言〉

山谷に奉仕して

私たちの行いは大海の一滴にすぎません

常任世話人 平田 明史

私は大阪で食品卸売業を営みながら、縁があって東京都浅草山谷ホームレス教会の伝道師をしております。それで東京の片隅の山谷(さんや)(東京都台東区)に通ってホームレスの人達に奉仕をするとともに、私なりにお米を送ったり、生活の必需品を与える努力をしてきました。はや十年近くになります。

それは大海の一滴に過ぎません。何もしなければ、その一滴も永遠に失われます。何もかも失った人々のために、よるべなき人々のために、深く苦しんで誰も助けられない人々に奉仕する心を持ちたい。そして微笑は出会う人の微笑を誘い勇気づけます。

リストラ、病気、けが、高齢化等により失業し、身寄りもなく公園や橋の下で野宿を続ける人々が増えています。しかも餓え、結核をはじめ内臓疾患の持病をいくつも抱え、酷暑の夏には熱射病で衰弱死し、厳冬期には凍死も免れず、身元不明のまま埋葬される人々も少なくありません。

他方で、自分は富んで豊かになっ

た、乏しい物は何もないと言っている人がいます。しかし実は、自分のみじめで哀れで貧しく盲目で裸であることを知らなくてはならないように思います。

私の一つの方法にすぎません。皆さま方に弱い人々に関心を持つようにしていただきたく望むものであります。

憲法フォークジャンボリー

「私は天皇を許さない」

『はだしのゲン』作者

中沢啓治さんの話

事務局長 今 正 秀

8月7日、憲法フォークジャンボリーが広島で行われました。往年のフォーク世代を中心に8時間にわたって、熱い思いが歌で綴られました。

ゲストとして、漫画『はだしのゲン』の作者中沢啓治さんが被爆体験を語られました。中沢さんは小学校で被爆。倒れてきた塀と木の間はずかな

◇ 短歌

辻 久子

「太鼓打」獲りて喜ぶ五歳児は
水中昆虫にはまりいるらし

ファックスの孫の「来てね」に
誘われて秋晴れの今日は運動会へ

(会員)

◇ 私のひとり言川柳

よし子

難問は切り取り線の向こう側
にっこりと忘れてしまっ

マニフェスト

年輪になるまで8月の祈り

(常任世話人)

隙間に命を救われました。自宅は焼け落ちており、母親だけを捜し当てることができました。2階建ての家が倒壊し、被爆当時2階にいた母は助かりましたが、父と弟・妹は崩れ落ちた家の下敷き。妹は声が全く聞こえなかったので即死だったのだろう、しかし、父と弟は、助け出すことができず、弟は「熱い、熱い、助けて」と叫びながら、炎のみ込まれていきました。一緒に死ぬと叫ぶ母を、近所の方が無理矢理引き離したのです。数日後、兄と焼け跡から3人の遺骨を拾ったのです。

戦後の生活の苦労も語った最後に、中沢さんがひととき言葉を強めて、「(昭和)天皇の(戦争終結の)判断がもう少し早ければ、原爆であんなに多くの人が死ぬことはなかった。戦後も天皇は原爆被害について責任を感じているとはいわないままだった。私は天皇を絶対に許さない。」と言われました。原爆で命を奪われた多くの人を代弁しての責任追及の言葉として、重く心に残りました。

☆活動日誌(2010年)

- ・8月31日 事務局会議
- ・9月29日 第138回常任世話人会

☆今後の予定

- ・11月20日 近畿ブロック交流会
(滋賀)
- ・11月22日 第139回常任世話人会
- ・12月3日 非核平和の集い
(県教育会館)

☆編集後記

最近の91・92号は郡安敏子さんが編集担当をして毎回すてきな紙面を提供してくれました。今号は特に安川先生の読み応えのある記事が目玉です。講演もご期待下さい。

今年5月はNPT再検討会議で核保有国の妨害の中で何とか核兵器の廃絶に向けての国際合意を維持することができました。また、10月には毎年4万種の生物が絶滅している中で生物多様性条約締約国会議コップ10でも先進国と発展途上国との利害対立をのりこえて合意が成立しました。

近い将来、人類絶滅の危機が来るにしても、はたまた回避できたとしても、今年地球と人類の運命にとって歴史的な年として記憶されるに違いないありません。

12月の非核平和の集いのチラシはいつも岡谷よし子常任世話人にご苦労をかけております。会への皆様のごさらなるご参加をお願いします。

古田恒俊(常任世話人)